

姉妹都市が結んだ友と再会したショーンドルフ

私の世界紀行

高山進三郎（広報青年部会）

快く待っているよ

ドイツが誇る特急列車 ICE がシュツットガルト中央駅に静かに滑り込みました。ケマーさん夫妻と本当にお会いできるかな……と少しの不安を抱きながら、同行の妻と私は駅の出口に向かいました。

「あ……ケマーさんだ！」両手を振って出迎えてくださっているご夫妻の姿が見えます。

Hallo! Es freut mich, Sie wiedersehen zu können.

（お元気でしたか、またお会いできて嬉しいです）。

私が、ドイツ語で話せたのはここまでだったような気がします。お互いに元気で再会できた喜びの挨拶を交わしました。

2006年（平成18年）秋、タスカルーサ市との姉妹都市締結20周年記念行事に、習志野市市民訪問団員としてタスカルーサ市を訪問した私は、ショーンドルフ市からの市民訪問団で来られたケマーご夫妻に初めてお会いしました。それを機会に毎年一回のクリスマスカードの交換が始まりました。ご夫妻と私がお会いするのはあの祝賀会以来7年半ぶりです。

今回、私は2月後半から個人旅行でミュンヘンを訪れる機会があり、前もってケマーさんにメールで訪問の打診をしたところ、「快く待っているよ」との連絡をいただき、初めてのショーンドルフ訪問となりました。

旧市街はロマンチック街道のたたずまい

ショーンドルフに向かう高速道路の標識には、ショーンドルフまで27kmと表示されています。この地域では美味しい葡萄酒が作られるそうで、高速道路沿いの丘陵にはブドウ畑が続いています。今年は例年になく暖かく、雪がないとのことでした。シュツットガルト



市庁舎広場には木組みの家が立ち並ぶからおおよそ30分でショーンドルフに着きました。

ショーンドルフの町は盆地にあって、町の端にはライン川につながるレムス川が流れています。町の中心部には、ロマンチック街道のたたずまいにも似たこぢんまりとした旧市街があり、古い城壁の一部が残されています。白壁に木組みがはっきりと縁どられた木造の建物は旧市街地の石畳と見事にマッチングしています。市庁舎に囲まれた石畳のマルクト広場と、少し離れて立つ高い鐘楼のある聖堂が古い時代を表す町の象徴のようです。このマルクト広場は季節々々のお祭りの会場となっていて、特にクリスマスの季節にはたくさんの飾り物であふれ、賑わうそうです。



ダイムラー博物館の内部

また、この町の誇りは、ダイムラーベントの生みの親ゴットリーブ・ダイムラーの生まれた町であるということです。彼の生家は記念博物館として残されており、道路には“ゴッテル・ダイムラー通り”や“ベント通り”があり、街中にはいたるところに彼の功績を称えるモニュメントが配置されています。

新しい交流の始まりに

日曜日で静かな石畳を歩きながら、ケマーさんの説明を聞いていると、突然、鐘楼の上のほうからトランペットの音が聞こえてきました。見上げると数名の人が私たちの方に向けて音楽を奏でています。「貴方達を歓迎したファンファーレですよ！」ケマーさんが笑いながら言った冗談が嬉しかったです。

旧市街の見学に併せて、ショーンドルフ市の国際交流協会代表のバッハーさんにも再会することができました。今回の訪問に合わせてケマーさんから連絡しておいて下さったのです。

その後、ケマーさんのご自宅にお伺いして、コーヒーをいただきながらゆっくりと午後のひと時を過ごしました。

別れ際に「貴方たちが習志野市からショーンドルフを訪れた最初の人ですよ」と言われ、私は、これからが新しい交流の始まりになればと思いながら、ショーンドルフを後にしました。

いろいろな思いを残して

旅には不思議な魅力があります。特に異文化に接する外国への旅は、言葉の違い、絵に描いたような建物や旧市街地、美味しい食べ物等、非日常の体験と驚きに満ちています。

今回のドイツへの旅も、戦争を体験したとは思えないような綺麗な旧市街地の佇まいを残し、古い文化を大切に、決して派手ではないが豊かさに満ち、落ち着いた人々の生活が大変印象に残りました。

DB(ドイツ鉄道)は旅行者に最も適した切符の手配と、その列車のきめ細かい情報を印刷

して渡してくれました。そうした行き届いたサービスは私たちも見習うべきであると感じました。また、街中の公衆トイレは日本より少なく、その場所を探すのが一苦勞でした。レストランなどでトイレを使用するときも、ほとんどのところでチップが必要です。私たちはいつの間にか、このようなサービスをただで受けられると勘違いしてしまっていたようです。

一方で、人の行き来が激しい場所でたくさんの人たちが喫煙していることが気になりました。中央駅等の出入り口付近にある喫煙所には吸い殻入れが置かれていますが、心無い人達の吸い殻がたくさん散乱していました。日本でも人通りの多い駅周辺で喫煙者のマナーが問われていますが、日本のほうが綺麗だと感じました。

美味しかったミュンヘンの生ビール、白ソーセージ、ショーンドルフの葡萄酒。そして初めての町ショーンドルフ訪問とそこでの友達との再会。短かくもいろいろな思いを残したドイツの旅でした。



ケマーさんのお宅で(写真中央がバッハーさんを挟んでケマーさん夫妻。両端は筆者夫妻)